

かんしょ 栽培講習会



中部農業改良普及センター
6月



～ 6月中旬までの基腐病発生状況 (普及センター確認分) ～

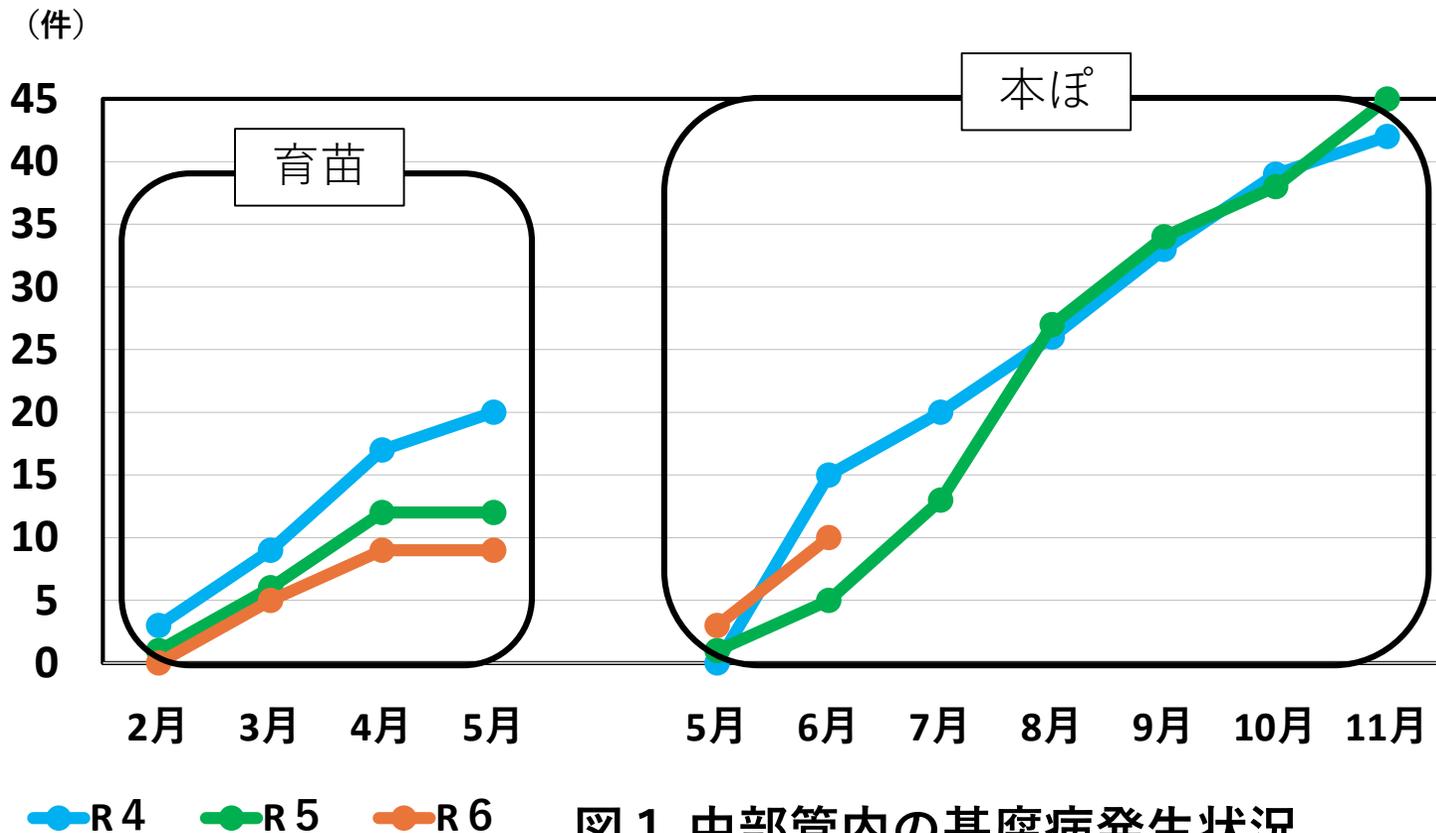


図1 中部管内の基腐病発生状況

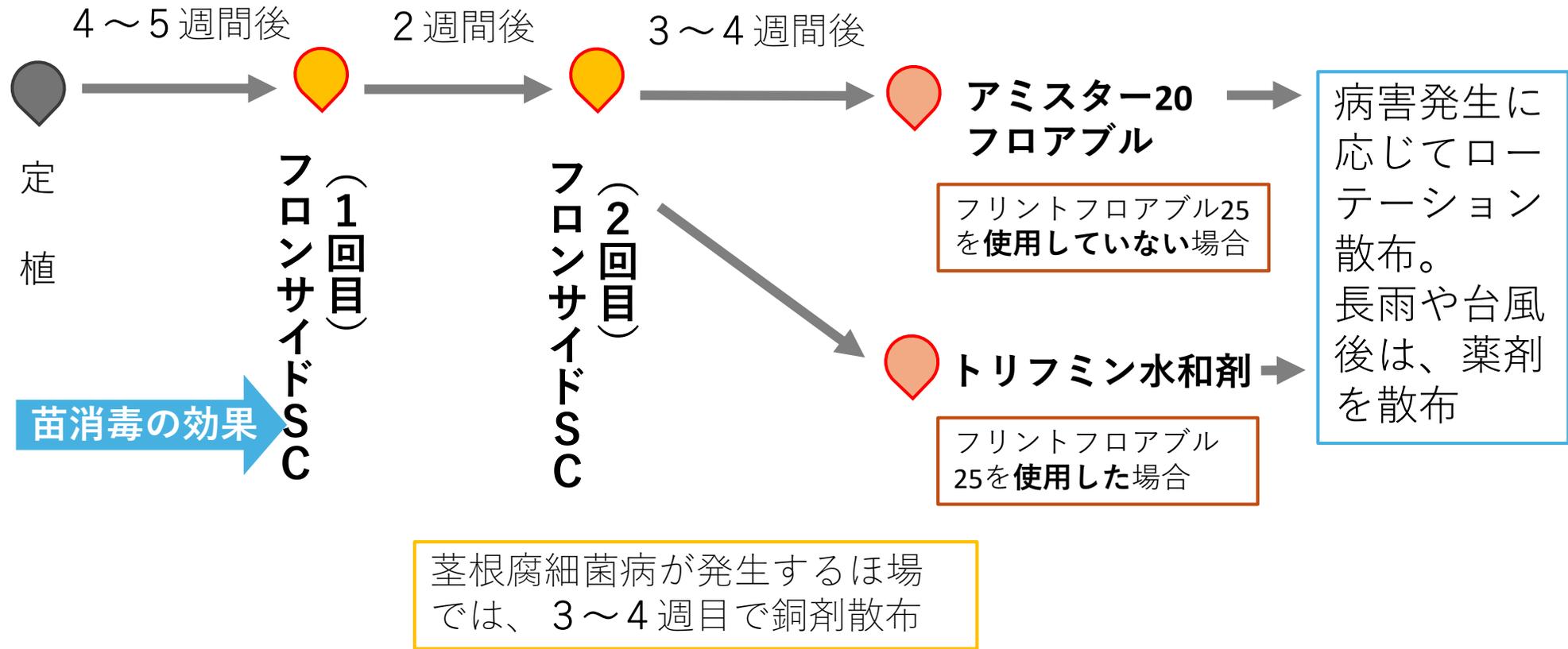
R6年度の本ぼの発生状況

5月 3件、6月 7件、合計10件。(国富町6件・田野町4件)

前年より発生件数が多いが、発生はいずれも数株程度。

一方で茎根腐細菌病の疑いがあるほ場が増えつつある。

～本ぽでの薬剤防除体系～



耐性菌が発生しやすいいため畝立て前の土壌消毒で、フリントフロアブルを使用したほ場では、アミスター20フロアブルを連用しない

～フロンサイドSCの散布について～



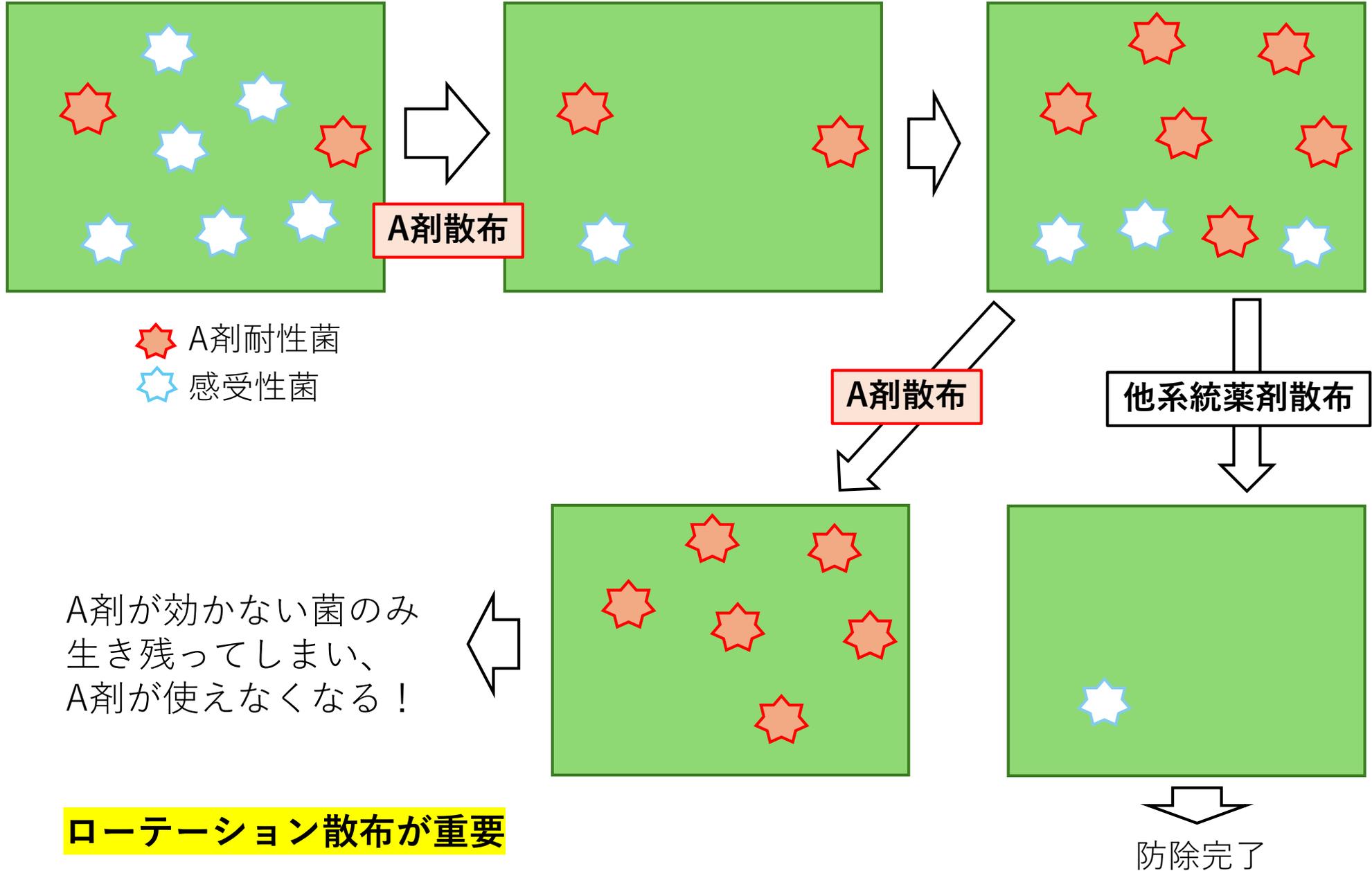
蔓が畝間に下りる前（植付後3～8週目を目安）の散布が有効。
畝間の病原菌に汚染された土壌からも感染が生じるため、
株、株間、畝間の土壌を含む全面に、たっぷり散布。



体質によっては、かぶれやすい薬剤です。
防護服等を身につけて散布を行いましょう。

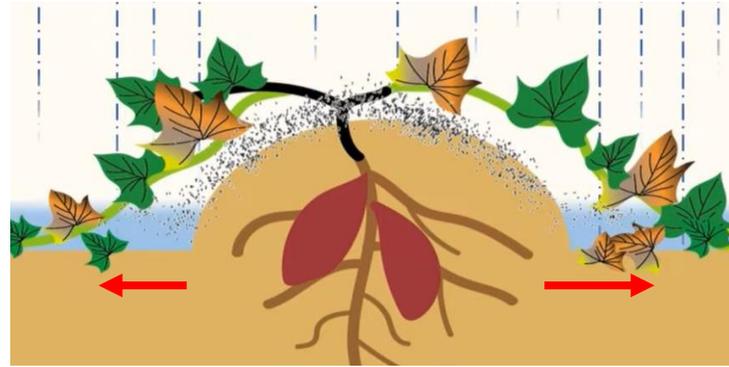
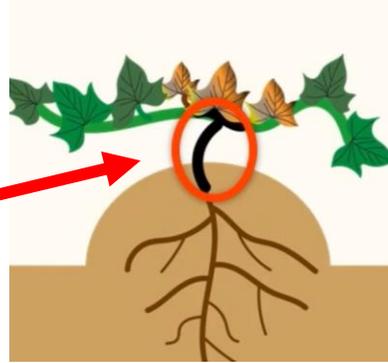
薬剤名	倍率	10aあたり使用液量	使用時期	本剤使用回数	使用方法
フロンサイドSC	1000倍	100～300L	収穫30日前まで	2回以内	散布
★治療 トリフミン水和剤	2000～3000倍	100～300L	収穫前日まで	2回以内	散布
	16倍	0.8～1.6L		2回以内	無人航空機での散布
★治療 アミスター20 フロアブル	2000倍	100～300L	収穫14日前まで	3回以内	散布
	12～32倍	1.6L	収穫14日前まで	3回以内	無人航空機での散布
Zボルドー	500倍	100～300L	—	—	散布
ジーファイン水和剤	1000倍	200～300L	収穫前日まで	—	散布
ICボルドー66D	50倍	100～300L	—	—	散布
クプロシールド	16倍	1.6L	—	—	無人航空機での散布
	32倍	3.2L	—	—	無人航空機での散布
	1000倍	100～300L	—	—	散布

耐性菌増加のメカニズム



～排水対策～

茎や株もとで
多く胞子が作
られている



周囲の株へ
二次感染



- ①ほ場に水をためない
- ②水がほ場に滞在する時間を短くする

表面＋地下排水対策



表面排水対策のみ



地下排水対策のみ



排水対策なし



排水対策 = **表面排水** + 地下排水

表面排水

①ほ場から排水路への導水・接続



枕畝を区切る



明渠



額縁明渠

③排水路の管理

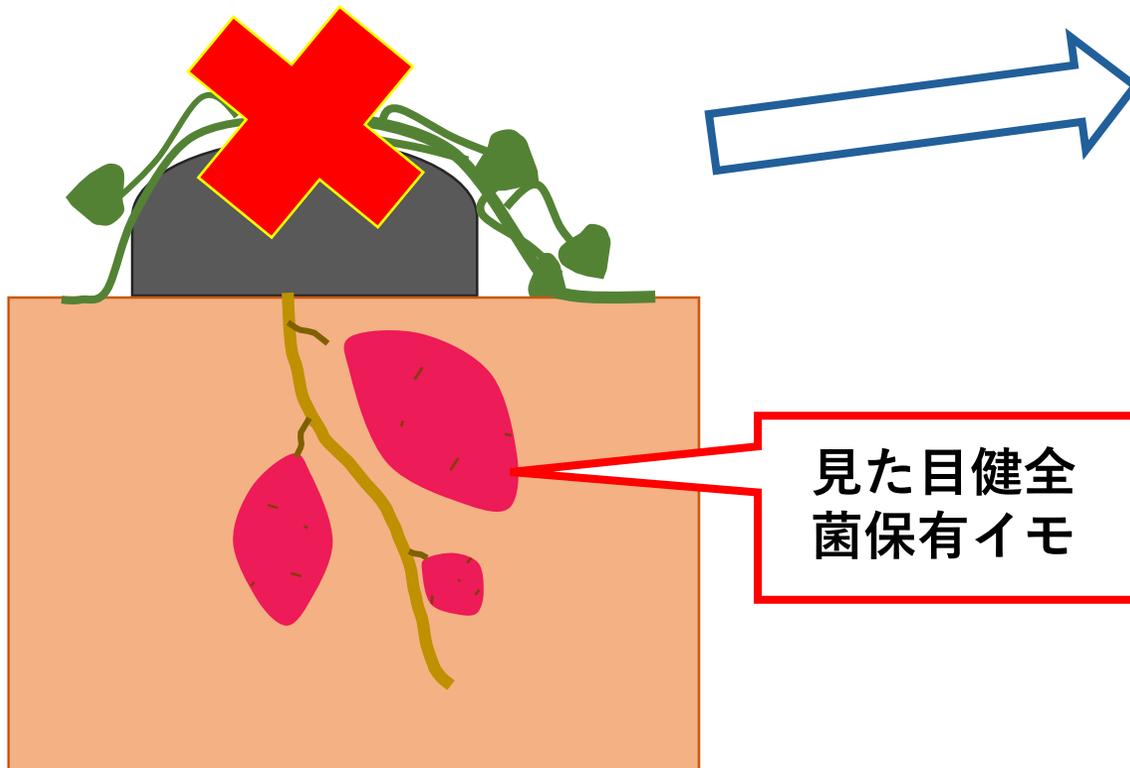


排水口・排水路の堆積物

水の流れを意識したほ場管理をする

種イモ収穫時の注意

機械で収穫する際は、事前に地上部の観察を行い、**発病の疑いがあるもの（黒変・しおれ・黄化等）は先にイモごと取り出す。**その後機械で収穫を行う。



無差別に収穫すると
見た目健全な菌保有イモも
収穫してしまう

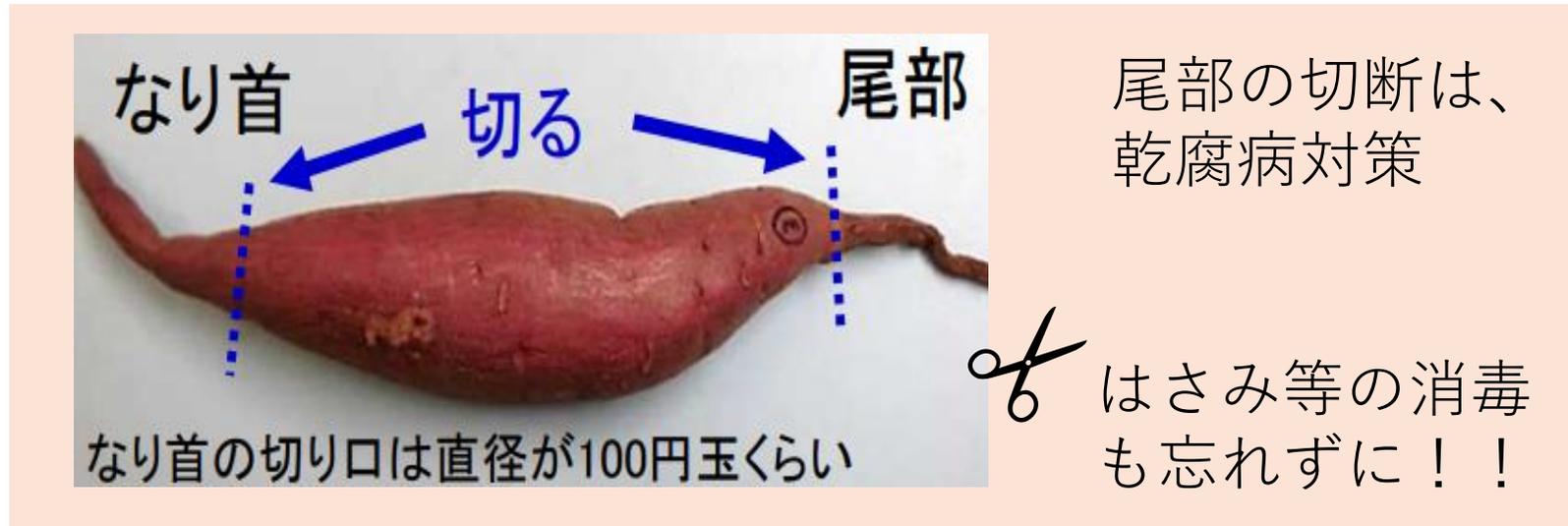


選別してもイモの見た目が
健全のためはじかれず
次年度の種イモに…



ほ場を次々と汚染してしまう

収穫後の管理



収穫 → 水洗 → 選別 → なり首・尾部除去 →

貯蔵前^の消毒が効果的

種子消毒 → 貯蔵 → 選別 → 苗床へ

※コガネセンガンは、先端部に芽が集中するため苗数を確保する必要がある場合は、直径1cm程度の切り口となるよう切る

種いもの薬剂消毒

2 剂の使用方法的の違いに注意！ 対象病害も異なる。

薬剂名	対象病害	使用倍率	使用時期	回数	使用方法
トップジンM水和剂	基腐病	200~500倍	貯蔵前~ 伏せ込み前	1回	30分間種いも浸漬
ベンレート水和剂	黒斑病	種いも重の0.4%	植付前	1回	種いも粉衣

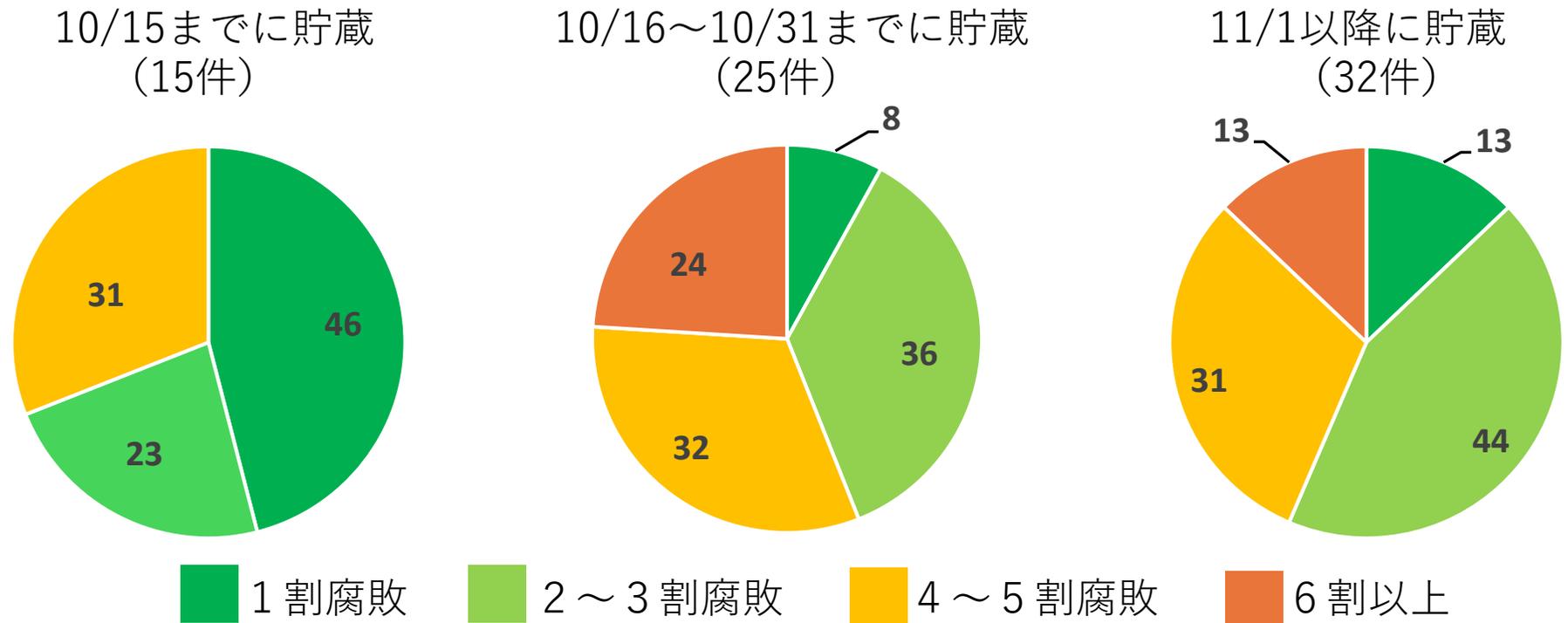


トップジンM水和剂で浸漬消毒後は、
しっかりと**乾燥させてから貯蔵**する

貯蔵開始時期の違いによる種イモの腐敗状況

(令和5年に中部管外で調査)

10月上旬までに収穫・貯蔵開始することで腐敗抑制効果が期待できる



※腐敗の原因は、さまざまであり、基腐病に限ったものではない。

農薬を用いた土壌消毒について

クロルピクリン

平均地温	くん蒸期間
25～30℃	約10日
15～25℃	10～15日
10～15℃	15～20日
7～10℃	20～30日

- 必ずポリエチレンなどのシート
- (0.03mm以上) で被覆する
- → 農薬登録上からも義務づけられている。
- 被覆する資材はより厚みがあるものを利用するとガス抜けが少なく効果が高い。

バスアミド微粒剤

平均地温	くん蒸期間
25℃以上	7～10日
20℃	10～14日
15℃	14～20日
10～15℃	20～30日以上

- クロルピクリンに比べ、地温が低いとガス化しにくく、効果が低下する恐れがある。なるべく地温が10℃以上の時に使用する。
- 全面に処理し、深さ15～25cmに土壌と十分に混和。
鎮圧処理も可能だがビニール被覆処理の効果高い。

～品種について～

○基腐病抵抗性品種

- みちしずく ～ 本年度作から本格的に栽培面積が増えてきている
- べにまさり ～ 南那珂（串間・日南）を中心に栽培
- べにひなた ～ 南那珂で1.5 ha程度栽培開始



ホクホクとした肉質・外観品質に優れる
肉食が白っぽい → 現在改良中・・・

○新品種 みやあかり



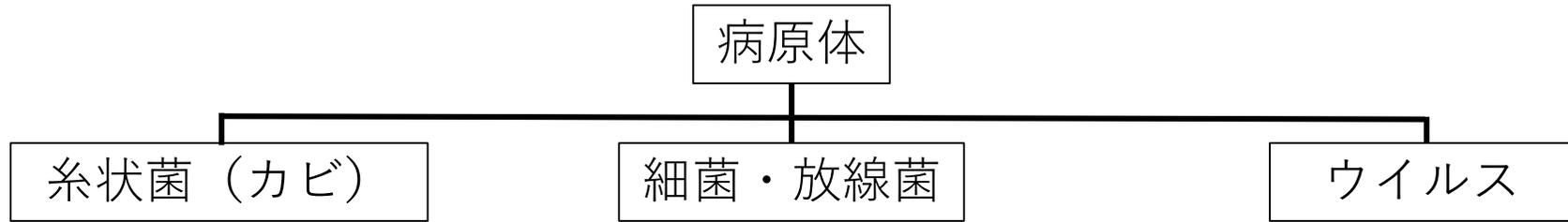
左 みやあかり 右 高系14号

加工用として注目されている
肉食が黄色味が強く鮮やか

基腐病抵抗性は「高系14号」と同程度
多収・早掘栽培の適性があり

～生物を侵す生物的病原体～

植物に危害を加える生物的ば病原体は、以下の3種に分類される。



- ・ 植物病害の約8割
- ・ 風雨、機械等で伝搬
- ・ 肥大化、腐敗、斑点など

- ・ 傷口などから侵入
- ・ 効果的な農薬は少ない
- ・ 腐敗、萎凋など

- ・ 傷口などから侵入
- ・ 効果的な農薬はない
- ・ 奇形・モザイク等ができる
- ・ 混合感染し激化する可能性
- ・ 昆虫や器具で伝搬



★ 基腐病
(糸状菌)



つる割病
(糸状菌)



★ 茎根腐細菌病
(細菌)



立枯病
(放線菌)



带状粗皮病
(斑紋モザイク
ウイルスの強毒
系統)



斑紋モザイク病
(斑紋モザイク
ウイルスの普通
系統)

農薬は、ラベルを見て正しく使用しましょう。



ホームページ

